

2012年7月15日

(灌水式)

Asperges me, Domine, hyssopo, et mundabor: lavabis me, et super nivem dealabor.

私にそそぎたまえ、主よヒソプで私に注ぎたまえ、そうすれば私は清くなるだろう。私を洗いたまえ、そうすれば雪よりも白くなるだろう。

Asperge_s < aspergo_ 未来・二人称単数「そそぎたまえ」(穏やかな命令として)

me_ < ego 対格「私を」

Domine < dominus 男性・単数・呼格「主よ」

Hyssopo_ < hyssopum 中性・単数・奪格「ヒソプで」

mundabor < mundo_ 未来・受動・一人称単数「清められるだろう」

lava_bis < lavo_ 未来・二人称単数「洗いたまえ」(穏やかな命令として)

super 前置詞「～以上に」

nivem < nix 女性・単数・対格「雪」

dealba_bor < dealbo_ 未来・受動・一人称単数「白くされるだろう」

ヒソプ

ヘブライ語由来。植物の名前。Origanum Syriacum

「出エジプト記」12:22の過ぎ越しの祭りで、子羊の血と混ぜられて、かもいに塗られる。また「レビ記」14:4-7、14:49-51の、らい病の儀式で使われた。「民数記」19章の儀式でもヒソプがきよめに使用される。ダビデは「詩篇」51篇で「ヒソプをもって私の罪を除いてきよめてください。」(新改訳聖書)と祈った。ヘブライ書 19:19-21にもある。(Wikipedia)



HJKT